

農村生活、毎日が新鮮

東京都八王子市出身の西田彩音さん(23)は、

NPO法人地球緑化センターの第22期緑のふるさと協力隊として4月に派遣され、一関市大東町大原の下内野地区で暮らしながら地区活動への協力、農作業体験などで精力的に駆け回る。初めての農村生活に戸惑いはあるものの「いろいろなことにチャレンジし、視野を広く持つて、これからの目標を固めていきたい」と笑顔で語り、豊かな自然の中で日々自分を磨いている。

恵泉女学園大時代、まちづくりに興味を持ったことが応募のきっかけになった。2014年に同法人の「若葉のふるさと協力隊」で同市萩荘の達古袋地区を訪れたことで「もっと一関のことを知りたい」と、派遣先に一関を希望した。

緑のふるさと協力隊

大東・下内野に西田さん

4月12日、下内野自治会が開いた歓迎会で地区デビュー。住民たちから温かい声を掛けられ、すいとななどの郷土料理でもてなしを受けた。

西田さんは、大学時代にサークルで取り組んだ南米の弦楽器・チャランゴの演奏で住民と打ち解けた。「楽器の名前を覚えてもらったし、その後には『この間の楽器の演奏、すごかったね』と声を掛けられた」とうれしそうに話す。

この1カ月、地区内を回りながら地元の行事への参加や、農家で水稻の育苗作業などを行ってきた。

4月29、30の両日は、二ホンシカによる農作物被害防止のため、下内野みどり期待を膨らませる。地区内の一軒家を借りての生活は、人生初の1人暮らし。フキノトウの天ぷら、シドケのおひたし

勝手が分からず、肉体的に疲れも出たが、一つが自分を成長させてくれる貴重な体験。「初めのことばかりだから、できることを考え、積極的に参加していきたい。これから農作業が本格化するし、イベントもたくさんあるので楽しんで、いい体験をしてほしい」と願う。

同自治会の勝部欣一会長は「やりたい夢、希望など、ここでできることは住民も協力する。顔を覚えて気楽に交流する中で、いい体験をしてほしい」と願う。

「まだ何をやりたいかは正直決まっていない」という西田さん。16年3月までの期限の中で経験を積みながら、じっくりと探すつもりだ。「下内野は農山村地域の中では活発に活動している。どのように地域を盛り上げようとしているかを勉強したい。自分は地域でも自由に動ける存在。フットワークの軽さを生かし、下内野の住民として頑張っていきたい」と目を輝かせる。



緑のふるさと協力隊として一関市大東町の下内野地区に住む西田さん。「いろいろなことにチャレンジしたい」と意気込む